



発行 社団法人 日本品質管理学会  
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内  
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507  
 ホームページ:www.jsqc.org/

## CONTENTS

- 1-トピックス JSQC信頼性・安全性計画研究会発足に向けて
- 2-私の提言 “Quality” と “品格”
- 2-ANQ QS論文募集!
- 3-第35年度品質管理推進功労賞推薦お願い/事務局からのお知らせ/1月の入会者紹介
- 4-教員公募/行事案内/Call for Papers

## JSQC信頼性・安全性計画研究会発足に向けて

電気通信大学 鈴木 和幸

産学の知見を統合し、信頼性・安全性造り込みへの体系化を目指す計画研究会が発足します。

### I 背景と目的

1999年以来、品質と安全性に関わる重大トラブルが様々な分野で頻発し、さらには、これらの事故・事件に関わる組織の不祥事も明るみに出て、社会の大きな関心を集めている。品質管理、信頼性工学、経営学、安全学、人間信頼性などの分野が、これらの品質・安全性問題への対処、組織事故撲滅、不祥事防止に関わる何らかの対応案を提示することが望まれる。

本研究会は、トラブル発生の技術要因、マネジメント要因、組織文化要因を視野に入れ、信頼性・安全性造り込みに関する技術的方法、組織的運営方法、さらにはトラブル発生時の対応計画、組織風土・文化までもを対象にし、学会加盟企業による信頼性・安全性造り込みへのベストプラクティスと大学・研究所の最新理論との融合、および関連する分野の知見の凝縮統合を通して、信頼性・安全性造り込みへの体系化を計ることを目的とする。

### II 検討項目

検討事項の柱とその視点を以下に示す。

a) 組織における安全文化構築へのモデルの提案：トップ・部門長のリーダーシップとコミットメント、安全文化への社会システムを含むインフラ構築、全部門全階層の心のつながりとベクトル合わせ

b) 安全文化の構築を支援するツールの開発：未然防止の為の知識ベースと情報共有、組織としてのFMEA・FTA・DRの活用と徹底、安全文化の評価診断

c) 信頼性・安全性保証システムの構築と提案：縦割の部門間の水平結合と組立メーカ・部品メーカ(協力企業)との共創/垂直結合

d) 信頼性・安全性造り込み技術の提案：グローバル化の下での3H(変化・初めて・久しぶり)部位への信頼性・安全性造り込み技術、使われ方・環境条件の相違によるストレス-故障のメカニズム-故障モードの体系化、ヒューマンエラーに関わるマネジメント要因の管理技術、エラーブーフ対策の生成技術、購買部品のFMEA

e) 教育訓練方法の開発：上記のa)~d)の成果を実践に移すための教育コースの開発とその試行、グローバル下での高度情報技術を用いた教育訓練方法

f) 提案・開発したモデル、ツール、システム、技術的方法、教育訓練方法

の実組織への適用

### III 研究方法

分野別のベストプラクティスを学習し融合・体系化していく。したがって多くの分野のリーディングカンパニーより事例をご紹介頂くとともに近年の学術的成果の情報交換を行い、上記検討項目への新たな開発・提案を行っていく。

JSQC会員諸兄より、効果が出ている実施例およびベストプラクティスをご提供下さるようお願いしたい。

なお、製造業の業種、運輸、食品、流通、小売等への領域拡大に対する研究会の分割化については、計画を煮詰める中で明確にしていく。

### IV メンバー

近々の立ち上げに向けて2月末時点における主な準備メンバーは下記の通りである

伊藤 誠 (筑波大学)

大田晋吾 (小松製作所)

金子龍三 (日本電気通信システム)

高橋武則 (慶應義塾大学)

田中健次 (電気通信大学)

中條武志 (中央大学)

永原賢造 (リコー)

宮地由芽子 (鉄道総合技術研究所)

鈴木和幸 (電気通信大学)

## ● 私 の 提 言 ●

## “Quality” と “品格”

キヤノン株式会社 根岸 達夫



近年、社会構造、経済活動の複雑化に伴い組織あるいは企業がその責任と透明性を強く求められるようになってきている。CSR、コンプライアンス等の観点からコーポレートガバナンスの確立が急務となってきたのは自然の成り行きであろう。しかしながら現実の世の中を見渡すと企業の不祥事はあとを絶たない。責任放棄、責任転嫁に始まり、はては開き直り等、次の世代へ継承すべき社会人としての自覚、日本人としての誇りはどこへ行ってしまったのかと呆れるほどの破廉恥ぶりである。そんな世相を反映してかどうかわからないが日本人が忘れ

て久しい「品格」という言葉が復活している。

この「品格」という言葉は物（製品）でいえば「品質、品位」であり、組織・企業であれば「体質、文化」でありまた人に当てはめれば「人格、品性」に相当するのではないだろうか。そういう意味では日頃品質活動に携っている我々にとって慣れ親しんでいる“Quality”と同義語ととらえてよいであろう。しかし「品質」は普段忘れられていたり、あるいは事が起きた時ぐらいしか意に留めない、また注目もされないといった面では極めて残念なことである。

品質マネジメントシステムの構築と実践を目指すISO規格の取得は各企業・団体にとって極めて論理的、体系的であるがために大いに活用されてきた。その意図するところは顧客視

点に立ったビジネスプロセスの継続的な改善でありその結果としてのアウトプット（製品、サービス）を通して企業・組織の永続的な収益性をもたらすことにある。確かに論理的で且つ合理性を持つこのシステムは“物”と“組織”には有効であることに異論を唱える人は多くはないであろう。では“人”という観点に立った場合にはどのようなシステムを有効に適用すればよいのであろうか？

今期からの学会の中長期計画では『品質立国 日本の再生』を掲げ、運営を推進していく。その中で『人材確保と人材育成』が重要であることは言を俟たない。それは「人」の「品格」育成そのものである。そのために忘れてならないことは“Logical”なアプローチのみならずこれまでの日本の品質を支えてきた繊細な人間系の「情念」、「感性」や「忠誠心」とかいった“Mentality”の醸成からのアプローチであろう。広報委員会の一員としてその醸成の場と機会を創出することにより学会活動に貢献できればと思っている。

**Call for Papers (JSQCメンバー向け)**  
**The 4th ANQ Quality Symposium**  
 “Quality in Management, Innovations & Technology (MIT).”  
 Organized by Asian Network for Quality  
 Hosted by Singapore Quality Institute (SQI)

## ●参加のお勧め

2006年9月26日～29日シンガポールにて、第4回アジア品質ネットワーク（ANQ：Asian Network for Quality）クオリティシンポジウム（4th ANQ QS）が開催されます。本シンポジウムは、ANQに加盟する品質に関する14組織が開催するシンポジウムで、グローバル社会におけるアジア品質の更なる向上を目指して議論を行います。今回のホスト組織は、Singapore Quality Institute (SQI)です。ホームページ（<http://www.anq2006.org/paper/>）よりCall for Papersをご確認ください。決定事項は順次JSQCホームページにて紹介いたします。

テマ：“Quality in Management, Innovations & Technology (MIT).”

場所：Singapore

公式言語：英語

アブストラクト提出：5月15日(月) JSQC宛 office@jsqc.org

1. 論文題目、2. 著者と所属、3. 連絡先、4. 「若手研究者の旅費支援」希望の有無、5. 要旨（A4 1/2ページ、シングルスペース）  
 Abstract Submission Form（MS-Word文書）

フルペーパー提出：7月15日(土) JSQC宛 office@jsqc.org

ANQは構成する各団体によって成り立っており、参加者は所属団体（JSQC）を通して申し込むことが原則となっております。個人として、直接SQIに申し込むことも不可能ではありませんが、原

則の趣旨をご理解の上、5月15日までのJSQCへの申し込みを強くお勧めします。

## ★JSQC国際委員会のおすすめイベント

JSQCを通して要旨を提出した方を対象とします。

## (1)若手研究者の旅費支援

JSQCでは、大学院生を対象に一つの発表に対して第1著者で本人が発表する場合に3万円の旅費支援を行います。該当者が多数の場合には、発表内容の評価が高い順に、10名程度を選びます。

## (2)論文賞

若手研究者を対象とした「最優秀論文賞」があります。第1著者で大学院生などの若手研究者が賞の選考対象となります。特別な手続きは必要ありません。詳細は改めてご案内いたします。

## 第35年度 品質管理推進功労賞： 学会員の皆様 候補者の推薦をお願いいたします！

(社)日本品質管理学会品質管理推進功労賞は、品質管理推進に尽力されている多くの方々に活力を与え、品質管理の発展がより加速され、ひいては産業界の発展に寄与できることを願って創設されました。本年度は第6回となり、次の要領で実施いたしますので、奮ってご推薦の程お願いします。

但し、推薦にあたっては次の点にご配慮ください。

- 1) 本賞選考の推薦は全てEメールにてお願いします。
- 2) 推薦に際しては、予め被推薦者の了解を得て、被推薦者本人の確認を受けた書類を送付してください。

### 記

- A. 本賞の授賞資格（品質管理推進功労賞内規）：**  
以下のいずれかの条件を満たす会員とする。
- 1) 企業・各種団体（以下、組織という。）に所属し、所属組織の品質管理の実践と推進に多大な貢献をした、もしくは、していると認められる者。
  - 2) 組織に所属し、本会に対する多大な貢献があった、もしくはある者。
  - 3) 組織に所属し、品質管理に対する造詣が深い者。
  - 4) 本会の役員2名以上の推薦があった者。
- B. 本年度選考方針：**
- a. 本年度は、既に本来の所属企業を退職している人も対象として含めるものとし、表彰対象者数は、6名とする。
  - b. 本賞対象者の推薦に際しては、55～65歳位を目安とし、70歳以上ならびに50歳以下は避けるものとする。
  - c. 本来の所属企業で取締役になった人は避ける（理事、執行役員は対象とする）。但し、子会社等へ出向し役員になった方は候補者に含めて差し支えないものとする。
- d. 女性に対する配慮を積極的に行う。**
- e. 35年度のJSQC理事は、今年度の推薦対象者から外す。**
- C. 推薦必要書類：**  
推薦書（様式219-1）、業績リスト（様式219-2）、上司等の推薦書（様式219-3、ここで上司等とは、元・上司、現・関連部門長を含むものとする。）  
様式については、下記参照  
URL：[http://www.jsqc.org/ja/kiroku\\_houkoku/jushou.html](http://www.jsqc.org/ja/kiroku_houkoku/jushou.html)
- D. 推薦締切：2006年6月30日**
- E. メール送付先：kourou@jsqc.org**
- F. 選考：(社)日本品質管理学会品質管理推進功労賞選考委員会が行う**
- G. 発表：9月に開催される本学会理事会での承認後、本人ならびに推薦者に通知**
- H. 表彰：2006年10月28日(土)  
本学会年次大会 授賞式**
- I. 連絡先：(社)日本品質管理学会事務局**
- J. 参考：URL [http://www.jsqc.org/ja/kiroku\\_houkoku/jushou/kouroushou.html](http://www.jsqc.org/ja/kiroku_houkoku/jushou/kouroushou.html)**

### 事務局からのお知らせ

#### 「デジタルエンジニアリングと品質保証研究会 研究報告書」頒布のお知らせ

この度、標記の成果が本学会の研究成果としてまとめられましたので、ご希望の会員の方に実費で頒布いたします。

1. 申込方法：E-mailまたはFAXにて資料名、部数、会員番号、氏名、所属、送付先住所、電話番号をご連絡の上お申し込みください。

申 込 先：本部事務局 E-mail [apply@jsqc.org](mailto:apply@jsqc.org) FAX 03-5378-1507

2. 資料代：1冊（A4判30頁）会員900円（税込み）非会員1,200円（税込み）送料（冊子小包）：1冊180円、2冊210円 他多数の場合、事務局までご連絡ください。申し込みと同時に下記宛お振り込みください。

振 込 先：(社)日本品質管理学会  
三井住友銀行 渋谷支店 普通預金 0922517

資料は入金を確認の上、郵送いたします。

### 2006年1月の 入会者紹介

2006年1月23日の資格審査において、下記の通り正会員15名、準会員2名の入会が承認されました。

.....

**(正会員15名)** ○阿南 佳之（オムロンソフトウェア）○松本 正二（ダイナパック）○新本 健太（三菱ふそうトラック・バス）○丸山 正一（日立製作所）○鈴木 三紀夫（TIS）○片山 薫（キリンテクノシステム）○半田 時男（クリエートインターナショナル）○桂田 和世（日本検査キューエイ）○中平 尚樹（マンダム）○木村 眞子（日本医療機能

評価機構) ○西町 和也 (ジャストシステム) ○大田 晋吾 (小松製作所) ○亀山 泰信 (関中央病院) ○佐藤 新也 (住友金属鉱山) ○野口三和人 (日本規格協会)  
 .....  
 (準会員2名) ○山田 正宗 (早稲田

大学) ○大木 達也 (東京情報大学)  
 .....  
**正 会 員 : 2929名**  
**準 会 員 : 143名**  
**賛助会員 : 170社197口**  
**公共会員 : 22口**

## 行 事 案 内

### ●第98回講演会 (中部)

テーマ:「新しい品質管理の考え方・進め方」  
 日 時: 2006年4月27日(木)  
 13:00~16:30  
 会 場: D-Square B1階スクエアプラザ  
 プログラム:  
 「品質立国日本の再生」(Q-Japan)  
 桜井正光氏 (リコー(株))  
 「顧客価値創造と第3世代のQFD」  
 大藤 正氏 (玉川大学)  
 参加費: 会 員4,000円 非会員5,000円  
 準会員2,000円 一般学生2,500円  
 定 員: 150名  
 申込方法: 中部支部事務局までお申し込みください。

### ●医療のための質マネジメント基礎講座 (医療の質・安全部会)

一月1回一日2回、計6回開催一  
 第1回 4月22日(土) 9:30~12:30  
 第2回 4月22日(土)13:30~16:30  
 第3回 5月21日(日) 9:30~12:30  
 第4回 5月21日(日)13:30~16:30  
 第5回 6月24日(土) 9:30~12:30  
 第6回 6月24日(土)13:30~16:30

会 場: 日本科学技術連盟 千駄ヶ谷本部  
 1号館3階講堂  
 定 員: 150名  
 詳 細: ホームページをご覧ください。  
 申込方法: 部会事務局までE-mailまたは  
 FAXにてお申し込みください。  
 E-mail: secretary@tqm.mgmt.waseda.ac.jp  
 部会事務局 加藤,永松 FAX03-3232-9780

### ●第80回研究発表会 (本部)

日 時: 2006年5月26日(金)・27日(土)  
 会 場: 日本科学技術連盟・千駄ヶ谷本部  
 プログラム:  
 ・5月26日(金)  
 10:00~11:15  
 チュートリアルセッションA  
 「最近のQFDの潮流と動向」  
 赤尾洋二氏 (山形大学)  
 11:25~12:40  
 チュートリアルセッションB  
 「キヤノン電子における人間尊重の経営」  
 酒巻 久氏 (キヤノン電子(株))  
 13:30~17:50 研究発表会 3会場  
 18:00~19:30 懇 親 会  
 ・5月27日(土)  
 10:00~16:30 研究発表会 4会場

## 「品質」誌、投稿論文の募集!

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、クオリティレポート、レター、QCサロンです。

論文誌編集委員会

### 参加費:

チュートリアルセッション・研究発表会  
 会 員6,000円 (締切後6,500円)  
 非会員8,000円 (締切後8,500円)  
 準会員3,000円 一般学生4,000円  
 研究発表会のみ (1日参加/2日参加とも)  
 会 員4,000円 (締切後4,500円)  
 非会員6,000円 (締切後6,500円)  
 準会員2,000円 一般学生3,000円

### 懇親会

会 員・非会員 4,000円  
 準会員・一般学生2,000円

申込締切: 2006年5月16日(月)

### 申込方法:

同封の参加申込書にご記入の上、本部事務局までお申し込みください。ホームページからもお申し込みできます。  
<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji>

### ●第82回研究発表会 (中部) 発表募集

日 時: 2006年8月30日(水)  
 10:40~16:40

会 場: 名古屋工業大学

### 申込締切:

発表申込締切: 5月22日(月)  
 予稿原稿締切: 7月28日(火)必着  
 参加申込締切: 8月23日(水)

### 研究/事例発表の申込方法:

同封の発表申込要領をご覧ください。  
 参加申込方法:  
 6月送付予定の参加申込書にご記入の上、中部事務局までお申し込みください。

### 行 事 申 込 先

JSQCホームページ: [www.jsqc.org/](http://www.jsqc.org/)

本 部: TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail: [apply@jsqc.org](mailto:apply@jsqc.org)

事務局携帯: 090-9128-7979

中部支部: TEL 052-221-8318

FAX 052-203-4806

E-mail: [nagoya51@jsa.or.jp](mailto:nagoya51@jsa.or.jp)

## 教員公募

### 早稲田大学 教員募集のお知らせ

募集人員: 理工学術院 創造理工学部 (2007年度開設予定; 現理工学部)  
 経営システム工学科および経営システム工学専攻  
 教授、助教授または専任講師 1名

専門分野: 知識情報処理およびその経営システムへの応用  
 担当科目: 「知識情報処理」、「情報数理基礎」、「情報システム開発演習」ほか  
 応募資格: (1)着任時において博士の学位を有すること

(2)原則として年齢45歳以下であること  
 (3)経営システム工学への関心が強いことを示す業績があること

着任時期: 2007年4月1日

応募書類: ホームページをご覧ください。

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/osusume.html#060302-1>

応募締切: 2006年5月31日

問合せ先: 理工学部 経営システム工学科 主任 高田祥三

Tel. 03-5286-3012

e-mail: [takata@waseda.jp](mailto:takata@waseda.jp)

**Call for Papers** The 4th ANQ Quality Symposium開催!! (詳細は中面2ページをご覧ください)